

道端に咲くホトトギスの花に日本の秋を見えています。

5月に東京に戻ってすぐに聖公会神学院で学生生活を始めました。東京とNYの違いを考えずに暮らしていました。でもMJMのことは、よく心に浮かびます。リターニーがなかなか集まることができない、アンケートを送っても回収できない…そんな悩みを帰国前から聞いていました。

MJMって一体何だったのだろうか？NYに住んでいた時の良き思い出のひとつに数えられてしまうのではMJMの存在する意味が消滅してしまいます。

MJMは建物を持たない「教会」だと私は思っています。どんな形であれMJMに連なる人々がどこにいても神の愛を分かち合える、それがMJMのMJMたる所以だと思うのです。現実にはリターニーたちがあちらこちらに散らばっているのでNYにいた時のようにともに聖書を読んだり、講師を招いての勉強会の実現は容易ではありません。そこで当面はこの月報で連絡を取り合い、ここを分かち合いの場にしていけたらいいなと思います。

私自身、神学院の日々の学びの中に新しい気づきが多く皆さまとお話ししたいことが山のようにあります。原稿をお送りください、と申し上げると堅苦しいので何かひとこと思い立った時に葉書に書いてお送りください。「日本は何でも高すぎるので暮らしにくい」「どこに行っても人が多くて歩けない！」こんなひとことでも歓迎です。

Let's speak up! お勧めの本などは嬉しい限りです。

この月報のタイトルをTEKNAとしました。ギリシャ語で「こどもたち」という意味です。私たちはみんな神さまのこどもたち。大人たちは自分が「こどもである」ことを忘れてしまうのだけれど、私たちはいくつになっても神さまのこどもたち！